

各 位

上場会社名	タカセ株式会社
代表者	代表取締役社長 大宮 典夫
(コード番号)	9087)
問合せ先責任者	常務取締役管理本部長 島津 和人
(TEL)	03-3571-9497)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成23年5月13日に公表した平成24年3月期(平成23年4月1日～平成24年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成24年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,870	170	170	100	9.81
今回修正予想(B)	4,800	80	80	△635	△62.34
増減額(B-A)	△70	△90	△90	△735	
増減率(%)	△1.4	52.9	52.9	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成23年3月期第2四半期)	4,899	181	171	2	0.28

平成24年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,000	340	340	200	19.63
今回修正予想(B)	9,800	245	240	△540	△53.05
増減額(B-A)	△200	△95	△100	△740	
増減率(%)	△2.0	△27.9	△29.4	—	
(ご参考)前期実績 (平成23年3月期)	9,725	430	413	108	10.60

平成24年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,500	130	150	90	8.83
今回修正予想(B)	4,470	40	70	△635	△62.34
増減額(B-A)	△30	△90	△80	△725	
増減率(%)	△0.7	△69.2	△53.3	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成23年3月期第2四半期)	4,711	148	166	6	0.59

平成24年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,250	260	275	160	15.70
今回修正予想(B)	9,150	165	190	△565	△55.50
増減額(B-A)	△100	△95	△85	△725	
増減率(%)	△1.1	△36.5	△30.9	—	
(ご参考)前期実績 (平成23年3月期)	9,358	359	373	90	8.83

修正の理由

個別の当第2四半期累計期間の営業収益につきましては、平成23年5月13日付「平成23年3月期決算短信」の期初公表値に対し、30百万円減(0.7%減)の44億70百万円となる見込であります。

営業利益および経常利益につきましては、これまで以上に作業業務の効率化や節電・残業等の経費削減を実施いたしま

したが、本年3月11日の東日本大震災の発生にともなうその後の顧客企業の物流にかかる方針やニーズの変化等により、特に、当社川崎港営業所において、東日本大震災規模の震災に対応する倉庫事業運営が求められたことから、期初想定以上に操業度の低下を余儀なくされる状況となりました。この結果、それぞれが、期初公表値に対して、90百万円減(69.2%減)の40百万円および80百万円減(53.3%減)の70百万円となる見込であります。

四半期純利益につきましては、平成23年11月4日公表の「特別損失(減損損失)の計上に関するお知らせ」に記載のとおり、固定資産にかかる減損損失6億73百万円を特別損失に計上することが余儀なくされたことから、6億35百万円の四半期純損失となる見込であります。

連結の当第2四半期累計期間の業績予想につきましては、主に、個別の当第2四半期累計期間の業績予想の修正要因により、上記のとおり修正いたします。

また、通期の業績予想(個別・連結)につきましては、主に個別の当第2四半期累計期間の業績見込みを考慮するとともに、下期の事業環境について不安定要素がありますが、コスト削減効果が継続して期待されることから、上記のとおり修正いたします。

(ご留意事項)

上記の業績予想につきましては、当社が現時点で合理的と判断した一定の前提にもとづいたものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上